

還暦大会で見せた古豪の意地!

半分、嬉しくて
半分、悔しい
4位入賞!



歓喜の雄叫び。弾ける笑顔。安堵の涙。失意の憂愁。今年もさまざまな感情が交錯した。還暦を迎えた「徳島駅伝」が、1月4日から3日間にわたって開催され、16郡市と関西実業団選抜チームのランナーが健闘を競った。メダル奪取に挑んだ阿南市は、初日から攻めの布陣で、実力が拮抗するチームとの熾烈なメダル争いを繰り広げた。総合成績は4位と悔しさも残るが、昨年の6位から躍進し、地力のあるところを見せた。中学生総合優勝、女子総合優勝は、次なる戦力が着実に育っていることの証。この栄冠を古豪復活への布石にしてほしい。

大会を写真で振り返る“フォトレポート”
市ホームページ「広報編集長の小窓」で配信中

のべ44人でつないだたすきを胸に
ゴールに駆け込む結城直哉選手
(1月6日 幸町新聞放送会館別館前)



価値ある4位 将来が楽しみなチーム に成長

充実の監督就任3年目を送った林雅広監督。解団式で選手の健闘をたたえた。

「選手たちは与えられた環境の中で、順風におごらず逆風を恐れず、本当によく頑張ってくれました。メダルには一步届きませんでした。中学生総合、女子総合での優勝、区間賞や新人賞の受賞は、次につながる大きな自信となりました。代表メンバーに選ばれなかった選手や控えに回った選手、すべての選手の力と絆で勝ち取った価値ある4位だと感じています。メダル奪取には課題も残りましたが、将来が楽しみなチームに育ってきました。これからも努力を重ね、さらなる上位をめざしたいと思います。沿道からご声援をいただき、本当にありがとうございます」



解団式であいさつする林監督

主将インタビュー

すべての選手が持てる力を十分に発揮し、チーム一丸となって戦うことができました。特に、中高生と女子選手がよく頑張ってくれたと思います。若手の成長は明るい話題。一方で、メダルを取るためには絶対的エースの育成が急務です。若手のホープがエースに成長してくれる日を楽しみにしています。



武谷佳典 選手 (31)
堅実な走りでチームを牽引

受賞おめでとうございます



新人賞

沖津 力 選手
阿南第二中学校 2年
7区(3.0km)で区間2位
21区(2.6km)で区間3位

区間賞

新居卓也 選手
新野中学校 3年
39区(3.1km)
10分30秒

折野加奈 選手
大阪学院大学 4年
16区(4.9km)
16分29秒